

○生理学：608-2-DP1・DP3・DP4・DP7

年次	学期	学則科目責任者
2年次	通年	吉垣 純子 (生理学)

学修目標 (G I O) と単位数	学習目標 (G10) : 人体は細胞の集合体として構成され, 細胞同士が互いにコミュニケーションをとることにより, 調和的に働いて恒常性が保たれている。恒常性の破綻としての疾病を理解するためには, 正常な人体がどのように恒常性を維持しているかを理解しなければならない。そのために, 1つのまとまった働きをする器官系 の概念を理解し, 構造と機能を学ぶ。さらに, 器官系の調節機構としての神経と内分泌の働きを理解する。歯科医師として対応すべき疾患の原因を考え追求するための基礎的な力を修得する。 単位数: 5
担当教員	吉垣 純子、加藤 治、*横山 愛、篠田 雅路、※佐藤 慶太郎、*鈴木 浩司、※岡林 堅、※横田 祐司、※井上 大輔、小川 博亮、※山崎 利哉、福島 美和子、※森山 聖子、※伊藤 洋子、藤井 みゆき、濱野 亜紀子、植木 克昌、鯨岡 創一郎
教科書	ビジュアル生理学・口腔生理学 第4版 吉垣純子・石井久淑 編集 学建書院 よくわかる! 摂食嚥下の基礎知識 近藤信太郎・吉垣純子 監修 わかば出版
参考図書	基礎歯科生理学 第7版 岩田幸一、井上富雄、船橋 誠、加藤隆史 医歯薬出版 カラー版 ボロン プールペープ 生理学 W.F. Boron, E.L. Boulpaep (著), 泉井亮, 河南洋, 久保川学 (翻訳) 西村書店 ガイトン 生理学 原著第13版 John E. Hall (著), 石川義弘, 岡村康司, 尾仲達史, 河野憲二 (翻訳) エルゼビア・ジャパン ギャング 生理学 原書26版 岡田泰伸 (監修), 佐久間康夫・岡村康司 (監訳) 丸善出版 歯科生理学実習 第2版 岩田幸一 他 医歯薬出版
評価方法 (E V)	平常点: 講義中に行うプレテスト, ポストテストの成績を平常点として成績に反映させる。 講義点: 4回の平常試験 (前期2回, 後期2回) の平均を講義点とする。 実習点: 実習については, プレテスト, 実習態度, 提出課題を評価する。実習成績は実習に出席することが前提となる。 最終評価は平常点5%, 講義点75%, 実習点20%で決定する。 それぞれの平常試験についての再試験は行わないが, 前期平常試験1, 2の結果が不良な者に対しては前期終了時にまとめて再試験を行うことがある。これは前期平常試験1, 2に対する評点として取り扱う。 また, 前後期平常試験・実習・平常点を含めた最終評価が不良な者に対しては全範囲についての再試験を行う。 授業および実習それぞれに対して4/5を超えた出席を必要とする。かりに授業または実習を1/5以上欠席した者は, 授業の平常試験または実習 (実技) 試験のそれぞれの再試験受験資格を喪失する。実習を欠席した場合, 追実習は行わない。
学生へのメッセージ オフィスアワー	講義中に予習・復習項目を提示します。次回講義の最初にその内容について試験を行いますので, 必ず予習・復習を行うこと。 生理学は基本的な知識の上に, 次の知識を積み重ねていく学問です。したがって, わからないことを放置してしまうと, 次の講義の内容もわからなくなってしまいます。1回の講義でわからなかったところは, なるべくその日のうちに解決しましょう。気軽に質問に来て下さい。e-mail での質問も受け付けています (physiol.md.ml@nihon-u.ac.jp)。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/09 (木) 2時限 11:10~12:40	生理学概論	<p>【授業の一般目標】 生理学における生体の恒常性の概念を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 人体の恒常性を説明できる。 2. 体液の量, 区分および体液の組成を説明できる。 3. 細胞膜における情報の受容, 物質の輸送を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき, 臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 細胞の構造と細胞内小器官の機能を復習しておく。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/09 (木) 2時限 11:10～12:40	生理学概論	<p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-3) 細胞の構造と機能 ②細胞の分泌と吸収を説明できる。 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ②ホルモン、成長因子、サイトカイン等の受容体を介する細胞情報伝達機構を説明できる。 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/04/09 (木) 3時限 13:40～15:10	体液	<p>【授業の一般目標】 体液の組成を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 体液の量、区分および体液の組成を説明できる。 2. 体液の移動を説明できる。 3. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：体液の区分と組成の違いを調べておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織 [上皮組織、結合 (支持) 組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。 ③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/04/09 (木) 4時限 15:20～16:50	興奮の伝導と伝達 1：静止膜電位	<p>【授業の一般目標】 神経が信号を伝えるメカニズムを理解するために、膜電位の成立機構を学ぶ</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 細胞内外のイオン組成の違いの成立機構を説明できる。 2. イオンチャンネルが説明できる。 3. 膜電位の測定法を説明できる。 4. 静止膜電位の成立を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：受動輸送と能動輸送について調べる。平衡電位について復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 予習項目を提示しプレテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 c 細胞・細胞小器官の構造・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ②ホルモン、成長因子、サイトカイン等の受容体を介する細胞情報伝達機構を説明できる。 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/09 (木) 4時限 15:20～16:50	興奮の伝導と伝達 1: 静止膜電位	C-3-4) - (5) 神経系 ⑧神経の活動電位の発生と伝導の機序を説明できる。	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/04/16 (木) 2時限 11:10～12:40	興奮の伝導と伝達 2: 活動電位	<p>【授業の一般目標】 神経が信号を伝えるメカニズムを理解するために、活動電位の発生機構を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 脱分極と過分極を説明できる。 2. 活動電位の発生機構が説明できる。 3. 細胞膜を介したイオンの動きを説明できる。 4. 閾値を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：イオンチャンネルとポンプの違いを理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織 [上皮組織、結合 (支持) 組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ⑧神経の活動電位の発生と伝導の機序を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/04/16 (木) 3時限 13:40～15:10	興奮の伝導と伝達 3: 興奮の伝導	<p>【授業の一般目標】 神経が信号を伝えるメカニズムを理解するために、興奮の伝導機構を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 活動電位が伝わるメカニズムを説明できる。 2. 全か無かの法則が説明できる。 3. 活動電位の三原則を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：静止膜電位の成立を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 予習項目を提示しプレテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織 [上皮組織、結合 (支持) 組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ⑧神経の活動電位の発生と伝導の機序を説明できる。 ⑨シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/04/16 (木) 4時限 15:20～16:50	興奮の伝導と伝達 4: シナプス伝達	<p>【授業の一般目標】 神経が信号を伝えるメカニズムを理解するために、シナプスにおける興奮伝達機構を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 興奮の伝導と伝達の違いを説明できる。 2. シナプスの構造を説明できる。 3. 開口放出におけるカルシウムイオンの役割を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/16 (木) 4時限 15:20～16:50	興奮の伝導と伝達 4：シナプス伝達	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：静止膜電位の成立を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織 [上皮組織、結合（支持）組織（血液を含む）、筋組織、神経組織]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ⑨シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/04/23 (木) 2時限 11:10～12:40	興奮の伝導と伝達 5：神経伝達物質	<p>【授業の一般目標】 神経が信号を伝えるメカニズムを理解するために、神経伝達物質について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 神経伝達物質の種類が説明できる。 2. 自律神経系における神経伝達物質を説明できる。 3. 運動神経の神経伝達物質を説明できる。 4. コリンエステラーゼの機能について説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：静止膜電位の成立を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 d 自律機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ⑨シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/04/23 (木) 3時限 13:40～15:10	興奮の伝導と伝達 6：EPSPとIPSP	<p>【授業の一般目標】 神経が信号を伝えるメカニズムを理解するために、興奮の抑制機構について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 抑制性の神経について説明できる。 2. 抑制性の神経伝達物質を列挙できる。 3. EPSPとIPSPの違いを説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：静止膜電位の成立を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/04/23 (木) 3時限 13:40～15:10	興奮の伝導と伝達 6: EPSPとIPSP	<p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 a ニューロン、グリア</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ⑨シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/04/23 (木) 4時限 15:20～16:50	筋と運動1: 骨格筋の収縮機構	<p>【授業の一般目標】 骨格筋の構造と機能を学ぶために、筋の分類を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.筋の分類を説明できる。 2.骨格筋と心筋の違いを説明できる。 3.横紋筋と平滑筋の違いを説明できる。 4.臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 骨格筋線維の構造を調べておく。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 c 細胞・細胞小器官の構造・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ①筋組織の分類と分布を説明できる。 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/05/07 (木) 2時限 11:10～12:40	筋と運動2: 骨格筋の神経支配	<p>【授業の一般目標】 骨格筋における筋収縮の機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.神経筋接合部における興奮伝達を理解する。 2.筋収縮におけるカルシウムイオンの役割を説明できる。 3.アクチンとミオシンのスライド機構を説明できる。 4.横紋筋と平滑筋の収縮機構の違いを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 興奮伝達のメカニズムを復習する。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 有 予習項目を提示しプレテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織 [上皮組織、結合（支持）組織（血液を含む）、筋組織、神経組織]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/07 (木) 2時限 11:10~12:40	筋と運動2:骨格筋の神経支配	②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 ③全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/05/07 (木) 3時限 13:40~15:10	筋と運動3:強縮と筋紡錘	【授業の一般目標】 骨格筋の収縮力の調節機構を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 神経筋単位について説明できる。 2. 筋肉における神経支配比を説明できる。 3. 強縮のメカニズムを説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:興奮伝達のメカニズムを復習する。 事前学修時間:30分 事後学修項目:復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間:30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 ③全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/05/07 (木) 4時限 15:20~16:50	筋と運動6:実習ガイダンス	【授業の一般目標】 骨格筋の収縮機構を学ぶために、実習を実施するのに必要な事項を学ぶ。 【行動目標 (SBOs)】 1. 実験動物の福祉と3Rについて説明できる。 2. 神経筋接合部の伝達について説明できる。 3. 強縮が起こるメカニズムを説明できる。 4. 骨格筋の疲労とは何か説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:筋収縮のメカニズムを復習する。 事前学修時間:30分 事後学修項目:実習書を読み、実習内容を理解しておく。 事後学修時間:30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:無 プリント配布 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ⑨シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/05/14 (木) 2時限 11:10~12:40	実習1:骨格筋の収縮/血液1:血液の成分と役割	【授業の一般目標】 骨格筋の収縮機構を理解する。 血液を構成する成分とそれぞれの役割を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 動物実験の意義と3Rの原則を説明できる。 2. 神経細胞における興奮伝導機序を説明できる。 3. 骨格筋の興奮 - 収縮連関を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 山崎 利哉 濱野 亜紀子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/14 (木) 2時限 11:10~12:40	実習1:骨格筋の収縮/血液1:血液の成分と役割	<p>4. 強縮が起こるメカニズムが説明できる。 5. 疲労の原因を列挙できる。 6. 血液の成分を列挙できる。 7. 血液の役割を列挙できる。 8. 血液の基準値を述べられる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:活動電位の発生機序と骨格筋の収縮機序を復習しておく。骨格筋の収縮高を測定する方法を予習する。 事前学修時間:30分 事後学修項目:実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:有 実習書を事前に配布し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年を2つに分け、骨格筋の収縮と血液の講義を交互(5月15日,22日)に行う。</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血管系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 a 骨髄、造血幹細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4-(3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4-(4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。</p>	横田 祐司 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/05/14 (木) 3時限 13:40~15:10	実習1:骨格筋の収縮/血液2:赤血球の生成と分解	<p>【授業の一般目標】 骨格筋の収縮機構を理解する。 赤血球の生成と分解過程を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 動物実験の意義と3Rの原則を説明できる。 2. 神経細胞における興奮伝導機序を説明できる。 3. 骨格筋の興奮 - 収縮連関を説明できる。 4. 強縮が起こるメカニズムが説明できる。 5. 疲労の原因を列挙できる。 6. 赤血球の新生と破壊を説明できる。 7. 間接ビリルビンと直接ビリルビンの違いを説明できる。 8. 貧血の種類と発症機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:活動電位の発生機序と骨格筋の収縮機序を復習しておく。骨格筋の収縮高を測定する方法を予習する。 事前学修時間:30分 事後学修項目:実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:有 実習書を事前に配布し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年を2つに分け、骨格筋の収縮と血液の講義を交互(5月15日,22日)に行う。</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血管系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 山崎 利哉 濱野 亜紀子 横田 祐司 植木 克昌 鯨岡 創一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/14 (木) 3時限 13:40～15:10	実習1：骨格筋の収縮/血液2：赤血球の生成と分解	<p>b 筋 a 骨髄、造血幹細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ⑥造血器官と造血機構を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 山崎 利哉 濱野 亜紀子 横田 祐司 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/05/14 (木) 4時限 15:20～16:50	実習1：骨格筋の収縮/血液3：血小板と止血	<p>【授業の一般目標】 骨格筋の収縮機構を理解する。 止血における血小板の役割を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1.動物実験の意義と3Rの原則を説明できる。 2.神経細胞における興奮伝導機序を説明できる。 3.骨格筋の興奮 - 収縮連関を説明できる。 4.強縮が起こるメカニズムが説明できる。 5.疲労の原因を列挙できる。 6.止血のステップを説明できる。 7.血小板の活性化を説明できる。 8.血液凝固反応を説明できる。 9.血液凝固反応におけるビタミンKの役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：活動電位の発生機序と骨格筋の収縮機序を復習しておく。骨格筋の収縮高を測定する方法を予習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に配布し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年を2つに分け、骨格筋の収縮と血液の講義を交互（5月15日、22日）に行う。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 a 骨髄、造血幹細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 山崎 利哉 濱野 亜紀子 横田 祐司 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/05/21 (木) 2時限 11:10～12:40	実習1：骨格筋の収縮/血液1：血液の成分と役割	<p>【授業の一般目標】 骨格筋の収縮機構を理解する。 血液を構成する成分とそれぞれの役割を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1.動物実験の意義と3Rの原則を説明できる。 2.神経細胞における興奮伝導機序を説明できる。 3.骨格筋の興奮 - 収縮連関を説明できる。 4.強縮が起こるメカニズムが説明できる。 5.疲労の原因を列挙できる。 6.血液の成分を列挙できる。 7.血液の役割を列挙できる。 8.血液の基準値を述べられる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：活動電位の発生機序と骨格筋の収縮機序を復習しておく。骨格筋の収縮高を測定する方法を予習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に配布し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年を2つに分け、骨格筋の収縮と血液の講義を交互（5月15日、22日）に行</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 山崎 利哉 濱野 亜紀子 伊藤 洋子 横田 祐司 植木 克昌 鯨岡 創一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/21 (木) 2時限 11:10~12:40	実習1:骨格筋の収縮/血液1:血液の成分と役割	う。 【学修方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 206教室、第3実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 a 骨髄、造血幹細胞 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 山崎 利哉 濱野 亜紀子 伊藤 洋子 横田 祐司 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/05/21 (木) 3時限 13:40~15:10	実習1:骨格筋の収縮/血液2:赤血球の生成と分解	【授業の一般目標】 骨格筋の収縮機構を理解する。 赤血球の生成と分解過程を理解する。 【行動目標(SBOs)】 1.動物実験の意義と3Rの原則を説明できる。 2.神経細胞における興奮伝導機序を説明できる。 3.骨格筋の興奮-収縮連関を説明できる。 4.強縮が起こるメカニズムが説明できる。 5.疲労の原因を列挙できる。 6.赤血球の新生と破壊を説明できる。 7.間接ビリルビンと直接ビリルビンの違いを説明できる。 8.貧血の種類と発症機序を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:活動電位の発生機序と骨格筋の収縮機序を復習しておく。骨格筋の収縮高を測定する方法を予習する。 事前学修時間:30分 事後学修項目:実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間:30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:有 実習書を事前に配布し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年を2つに分け、骨格筋の収縮実習と血液の講義を交互(5月15日、22日)に行う。 【学修方略(LS)】 実習 【場所(教室/実習室)】 206教室、第3実習室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 a 骨髄、造血幹細胞 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ⑥造血器系と造血機構を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 山崎 利哉 伊藤 洋子 濱野 亜紀子 横田 祐司 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/05/21 (木) 4時限 15:20~16:50	実習1:骨格筋の収縮/血液3:血小板と止血	【授業の一般目標】 骨格筋の収縮機構を理解する。 止血における血小板の役割を理解する。 【行動目標(SBOs)】	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/21 (木) 4時限 15:20～16:50	実習1：骨格筋の収縮/血液3：血小板と止血	<p>1.動物実験の意義と3Rの原則を説明できる。 2.神経細胞における興奮伝導機序を説明できる。 3.骨格筋の興奮 - 収縮連関を説明できる。 4.強縮が起こるメカニズムが説明できる。 5.疲労の原因を列挙できる。 6.止血のステップを説明できる。 7.血小板の活性化を説明できる。 8.血液凝固反応を説明できる。 9.血液凝固反応におけるビタミンKの役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：活動電位の発生機序と骨格筋の収縮機序を復習しておく。骨格筋の収縮高を測定する方法を予習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に配布し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年を2つに分け、骨格筋の収縮と血液の講義を交互（5月15日、22日）に行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 a 骨髄、造血幹細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。</p>	井上大輔 山崎利哉 伊藤洋子 濱野亜紀子 横田祐司 植木克昌 鯨岡創一郎
2026/05/28 (木) 2時限 11:10～12:40	血液4：浮腫	<p>【授業の一般目標】 浮腫の起こるメカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.血漿膠質浸透圧を説明できる。 2.浮腫の症状を説明できる。 3.浮腫を生じるメカニズムを説明できる。 4.臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：体液の区分と組成の違いを調べておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織〔上皮組織、結合（支持）組織（血液を含む）、筋組織、神経組織〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ②体液の量と組成及び浸透圧の調節機構を説明できる。 ③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/05/28 (木) 2時限 11:10~12:40	血液4:浮腫	⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/05/28 (木) 3時限 13:40~15:10	血液5:血液演習	<p>【授業の一般目標】 血液の測定値で得られる情報を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 血液測定値の測定方法と原理を説明できる。 2. 血液測定で検出される異常を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 血液に関する基準値を調べておく。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 血球の種類と機能を復習する。 事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 有 学生同士で相互に教え合う。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 カ 造血器系 a 骨髄、造血幹細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/05/28 (木) 4時限 15:20~16:50	血液5:血液演習	<p>【授業の一般目標】 血液の測定値で得られる情報を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 血液測定値の測定方法と原理を説明できる。 2. 血液測定で検出される異常を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 血液に関する基準値を調べておく。 事前学修時間: 30分 事後学修項目: 血球の種類と機能を復習する。 事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 有 学生同士で相互に教え合う。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 カ 造血器系 a 骨髄、造血幹細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/03 (水)	平常試験1と解説	【授業の一般目標】	吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
3時限 13:00～13:50	13:00～	<p>生理学概論、血液、細胞膜の電気現象、および筋肉の講義・実習内容について試験を行う。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 恒常性を説明できる。 2. 静止膜電位と活動電位を説明できる。 3. 興奮伝達を説明できる。 4. 骨格筋の収縮機構を説明できる。 5. 血液の成分と役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：実習の内容も含め、理解しておくこと。 事前学修時間：3時間 事後学修項目：不正解した問題について講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 a 骨髄、造血幹細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 ⑥造血器官と造血機構を説明できる。 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ⑧神経の活動電位の発生と伝導の機序を説明できる。 ⑨シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。 ⑦ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。</p>	加藤 治 *横山 愛
2026/06/03 (水) 5時限 14:25～14:50	解説1 14:00～	<p>【授業の一般目標】 平常試験1についての解説講義を行う。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 恒常性を説明できる。 2. 血液の成分と役割を説明できる。 3. 静止膜電位と活動電位を説明できる。 4. 興奮伝達を説明できる。 5. 骨格筋の収縮機構を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：自身の解答を把握しておくこと。 事前学修時間：30分 事後学修項目：不正解した問題について講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 b 筋 a 骨髄、造血幹細胞</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/03 (水) 5時限 14:25～14:50	解説1 14:00～	<p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4-(4) 血液・リンパと循環器系 ④血液の構成要素と役割を説明できる。 ⑦止血、血液凝固及び線溶の機序を説明できる。 C-3-4-(3) 筋組織と筋系 ②筋細胞の構造と筋収縮の機序を説明できる。 C-3-4-(5) 神経系 ⑦ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。 ⑧神経の活動電位の発生と伝導の機序を説明できる。 ⑨シナプス伝達の機序と神経伝達物質を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/11 (木) 2時限 11:10～12:40	神経1：神経の分類	<p>【授業の一般目標】 神経系による恒常性維持を理解するために、神経の種類と役割を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 中枢神経と末梢神経を説明できる。 2. 求心性神経と遠心性神経を説明できる。 3. 体性神経と自律神経を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経線維の構造を復習する。神経伝達のメカニズムを復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 a ニューロン、グリア e 高次脳機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4-(5) 神経系 ⑦ニューロンとグリアの構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/11 (木) 3時限 13:40～15:10	神経2：中枢神経の役割	<p>【授業の一般目標】 神経系による恒常性維持を理解するために、中枢神経の構造と役割を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 中枢神経の種類と構造と説明できる。 2. 大脳皮質の役割を説明できる。 3. 視床の役割を説明できる。 4. 視床下部の役割を説明できる。 5. 小脳の役割を説明できる。 6. 脳幹の役割を説明できる。 7. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経線維の構造を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/11 (木) 3時限 13:40～15:10	神経2：中枢神経の役割	<p>消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 a ニューロン、グリア e 高次脳機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ④脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能）を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/11 (木) 4時限 15:20～16:50	神経3：中枢神経の役割	<p>【授業の一般目標】 神経系による恒常性維持を理解するために、中枢神経の構造と役割を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 中枢神経の種類と構造と説明できる。 2. 脊髄における神経の走行を説明できる。 3. 感覚及び運動の伝導路を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経線維の構造を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義の復習時間を設けてチェックテストを行い、解説を作成する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 a ニューロン、グリア e 高次脳機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ④脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能）を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/18 (木) 2時限 11:10～12:40	神経4：脊髄反射	<p>【授業の一般目標】 神経系による恒常性維持を理解するために、反射における脊髄の役割を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 反射と随意運動の違いを説明できる。 2. 反射を構成する5要素を説明できる。 3. 伸張反射の役割と反射弓を説明できる。 4. 屈曲反射の役割と反射弓を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経の分類を復習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 提示された予習内容についてプレテストを行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/18 (木) 2時限 11:10～12:40	神経4：脊髄反射	<p>4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 e 高次脳機能 b 筋</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ⑥反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/18 (木) 3時限 13:40～15:10	神経5：自律神経	<p>【授業の一般目標】 神経系による恒常性維持を理解するために、自律神経の働きを学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 自律神経の二重支配を説明できる。 2. 自律反射の種類と反射弓を説明できる。 3. 神経線維の種類と役割の違いを説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経の分類を復習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 d 自律機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/18 (木) 4時限 15:20～16:50	神経6：神経線維の種類と役割	<p>【授業の一般目標】 神経系による恒常性維持を理解するために、自律神経の働きを学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 神経線維の種類と役割の違いを説明できる。 2. 神経線維に対する局所麻酔薬の効果の違いを説明できる。 3. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経の分類を復習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義の復習時間を設けてチェックテストを行い、解説を作成する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/18 (木) 4時限 15:20～16:50	神経6：神経線維の種類と役割	<p>ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 a ニューロン、グリア</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(5) 神経系 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/06/25 (木) 2時限 11:10～12:40	感覚1：感覚の種類と伝導路	<p>【授業の一般目標】 感覚における刺激と受容器の関係を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 感覚の分類を説明できる。 2. 適刺激を説明できる。 3. 感覚の受容器を説明できる。 4. 起動電位を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：体性神経の分類を確認しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 提示された予習内容についてプレテストを行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 ③内臓感覚を概説できる。 ④疼痛の種類、発生機序及び制御機構を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/06/25 (木) 3時限 13:40～15:10	感覚2：皮膚感覚	<p>【授業の一般目標】 皮膚感覚の感覚器と成立機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 感覚神経を説明できる。 2. 痛みを伝える神経を説明できる。 3. 順応を説明できる。 4. 感覚点と二点弁別閾の違いを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：受容器と神経の関係を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義の復習時間を設けてチェックテストを行い、解説を作成する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/06/25 (木) 3時限 13:40～15:10	感覚2：皮膚感覚	<p>ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ア 皮膚・粘膜系 b 付属器</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 ④疼痛の種類、発生機序及び制御機構を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/06/25 (木) 4時限 15:20～16:50	感覚3：歯の感覚	<p>【授業の一般目標】 歯における感覚の種類と成立機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯における神経分布を説明できる。 2. 歯髄感覚を説明できる。 3. 象牙質感覚を説明できる。 4. 前痛感覚について説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経線維と感覚の関係を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 c 象牙質、歯髄、歯根膜</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 ④疼痛の種類、発生機序及び制御機構を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/07/02 (木) 2時限 11:10～12:40	感覚4：口腔粘膜 感覚	<p>【授業の一般目標】 口腔領域の感覚支配と伝導路を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口腔粘膜感覚の種類を説明できる。 2. 口腔粘膜感覚の支配神経を説明できる。 3. 歯根膜に存在する感覚受容器を説明できる。 4. 口腔感覚の伝導路を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経線維と感覚の関係を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p>	篠田 雅路

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/02 (木) 2時限 11:10～12:40	感覚4：口腔粘膜 感覚	<p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇 c 象牙質、歯髄、歯根膜</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。</p>	篠田 雅路
2026/07/02 (木) 3時限 13:40～15:10	感覚5：味覚と嗅 覚	<p>【授業の一般目標】 味覚および嗅覚の種類と受容機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 味覚受容器を説明できる。 2. 味覚受容器の分布を説明できる。 3. 4基本味を列挙できる。 4. 味覚の伝導路を説明できる。 5. 嗅覚受容器を説明できる。 6. 嗅覚受容器の分布を説明できる。 7. 嗅覚伝導路を説明できる。 8. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔の構造を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義内容を復習する時間を設けてチェックテストを行い、解説を作成する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 b 味覚、嗅覚</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑩味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/07/02 (木) 4時限 15:20～16:50	感覚6：特殊感覚	<p>【授業の一般目標】 特殊感覚の感覚器と成立機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 特殊感覚の種類を説明できる。 2. 視覚・聴覚・平衡感覚の適刺激を説明できる。 3. 視覚・聴覚・平衡感覚の構造と伝達経路を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/02 (木) 4時限 15:20~16:50	感覚6：特殊感覚	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：受容器と神経の関係を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/07/09 (木) 2時限 11:10~12:40	内分泌1：内分泌調節	<p>【授業の一般目標】 内分泌系による恒常性維持を理解するために、体液性調節の働きを学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 体液性調節と神経性調節の特徴を説明できる。 2. 内分泌と外分泌の違いを説明できる。 3. 分泌腺と標的臓器の関係を説明できる。 4. 内分泌腺の種類を説明できる。 5. 下垂体後葉の機能を説明できる。 6. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：神経性調節の利点・欠点を復習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 予習項目を提示しプレテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ②恒常性維持と内分泌系・神経系の機能相関を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/07/09 (木) 3時限 13:40~15:10	内分泌2：負のフィードバック調節	<p>【授業の一般目標】 内分泌における負のフィードバック調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. ホルモン視床下部 - 下垂体前葉系の調節について説明できる。 2. 視床下部ホルモンと下垂体前葉ホルモンについて説明できる。 3. ストレス応答について説明できる。 4. 負のフィードバック調節機構について説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：視床下部-下垂体前葉の関係を復習する。 事前学修時間：30分</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/09 (木) 3時限 13:40～15:10	内分泌2：負のフィードバック調節	<p>事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 予習項目を提示しプレテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/07/09 (木) 4時限 15:20～16:50	内分泌3：血糖値・カルシウム調節	<p>【授業の一般目標】 ホルモンによる血糖値と血中カルシウムの調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 血糖値を上昇させるホルモンを列挙できる。 2. 血糖値を低下させるホルモンを説明できる。 3. 体内において糖を蓄える場所を説明できる。 4. 血漿カルシウム濃度を上昇させるホルモンを挙げられる。 5. 血漿カルシウム濃度を上昇させる機構について説明できる。 6. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血糖値とは何か、カルシウムは生体のどこに多いか復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ケ 内分泌系 a 内分泌器官</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/07/16 (木) 2時限 11:10～12:40	内分泌4：体液量調節	<p>【授業の一般目標】 ホルモンによる体液量の調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 体液量を上昇させるホルモンを列挙できる。 2. 体液量を上昇させる機構を説明できる。 3. 体液量と血圧の関係について説明できる。 4. 血圧低下を認識する受容器とホルモン分泌の関係を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：体液組成について復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 予習項目を提示しプレテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/16 (木) 2時限 11:10～12:40	内分泌4：体液量調節	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ケ 内分泌系 a 内分泌器官</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/07/16 (木) 3時限 13:40～15:10	内分泌5：ホルモンの種類と構造	<p>【授業の一般目標】 ステロイドホルモンと受容機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. ホルモンを構造の違いによって分類できる。 2. ホルモンの核受容体と膜受容体を分類できる。 3. ステロイドホルモンと核内受容体の関係を説明できる。 4. ペプチドホルモンと細胞膜受容体の関係を説明できる。 5. ホルモン受容体によって引き起こされる細胞の応答を説明できる。 6. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：内分泌臓器と分泌ホルモンについて復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ケ 内分泌系 b ホルモンの合成・分泌・作用</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/07/16 (木) 4時限 15:20～16:50	内分泌6：内分泌異常	<p>【授業の一般目標】 内分泌系異常を理解するために、症状とホルモンの作用の関係について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 甲状腺ホルモンの分泌異常について説明できる。 2. 副腎皮質ホルモンの分泌異常について説明できる。 3. 副腎髄質ホルモンの分泌異常について説明できる。 4. 成長ホルモンの分泌異常について説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：ホルモンの生理作用を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/16 (木) 4時限 15:20～16:50	内分泌6：内分泌異常	<p>ケ 内分泌系 b ホルモンの合成・分泌・作用</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/07/23 (木) 2時限 11:10～12:40	実習2：感覚	<p>【授業の一般目標】 感覚の成立機構と感覚受容に影響する因子を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. Freyの刺激毛を使って皮膚の圧覚閾値を測定できる。 2. 部位による感覚閾値の違いを説明できる。 3. 部位による二点弁別閾の違いを説明できる。 4. 味物質による閾値の違いを説明できる。 5. 味覚の受容に影響する因子を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：顎反射の種類を復習する。咀嚼筋の収縮による下顎の動きを理解しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に予習し、グループで話し合いながら実験を進める。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇 b 味覚、嗅覚</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。 ⑩味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 横田 祐司 小川 博亮 福島 美和子 濱野 亜紀子 藤井 みゆき 伊藤 洋子 井上 大輔 森山 聖子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/07/23 (木) 3時限 13:40～15:10	実習2：感覚	<p>【授業の一般目標】 感覚の成立機構と感覚受容に影響する因子を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. Freyの刺激毛を使って皮膚の圧覚閾値を測定できる。 2. 部位による感覚閾値の違いを説明できる。 3. 部位による二点弁別閾の違いを説明できる。 4. 味物質による閾値の違いを説明できる。 5. 味覚の受容に影響する因子を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：顎反射の種類を復習する。咀嚼筋の収縮による下顎の動きを理解しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に予習し、グループで話し合いながら実験を進める。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 横田 祐司 小川 博亮 福島 美和子 濱野 亜紀子 藤井 みゆき 伊藤 洋子 井上 大輔 森山 聖子 植木 克昌 鯨岡 創一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/07/23 (木) 3時限 13:40~15:10	実習2: 感覚	<p>必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇 b 味覚、嗅覚</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。 ⑩味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 横田 祐司 小川 博亮 福島 美和子 濱野 亜紀子 藤井 みゆき 伊藤 洋子 井上 大輔 森山 聖子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/07/23 (木) 4時限 15:20~16:50	実習2: 感覚	<p>【授業の一般目標】 感覚の成立機構と感覚受容に影響する因子を理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. Freyの刺激毛を使って皮膚の圧覚閾値を測定できる。 2. 部位による感覚閾値の違いを説明できる。 3. 部位による二点弁別閾の違いを説明できる。 4. 味物質による閾値の違いを説明できる。 5. 味覚の受容に影響する因子を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 顎反射の種類を復習する。咀嚼筋の収縮による下顎の動きを理解しておく。 事前学修時間: 1時間 事後学修項目: 実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間: 1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 有 実習書を事前に予習し、グループで話し合いながら実験を進める。</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇 b 味覚、嗅覚</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。 ⑩味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 横田 祐司 小川 博亮 福島 美和子 濱野 亜紀子 藤井 みゆき 伊藤 洋子 井上 大輔 森山 聖子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/08/19 (水) 1時限 10:00~10:50	平常試験2と解説	<p>【授業の一般目標】 神経、感覚、内分泌の講義・実習内容について試験を行う。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 神経の分類と役割を説明できる。 2. 中枢神経の役割を説明できる。 3. 感覚器の種類と伝導路を説明できる。 4. ホルモンの種類を説明できる。 5. ホルモンの分泌制御と作用を説明できる。 6. 内分泌異常による疾病を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/08/19 (水) 1時限 10:00～10:50	平常試験2と解説 10:00～	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：実習の内容も含め、理解しておくこと。 事前学修時間：3時間 事後学修項目：不正解した問題について講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ケ 内分泌系 a 内分泌器官 b ホルモンの合成・分泌・作用 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌・代謝・栄養 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能 d 自律機能 e 高次脳機能 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇 b 味覚、嗅覚 c 象牙質、歯髄、歯根膜 d 咀嚼筋筋紡錘、顎関節受容器</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 ④脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能）を説明できる。 ⑥反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。 ②体性感覚の受容体の構造と機能を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。 ⑩味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 ②恒常性維持と内分泌系・神経系の機能相関を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/08/19 (水) 3時限 12:20～12:45	解説2 12:20～	<p>【授業の一般目標】 平常試験2についての解説を行う。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 神経の分類と役割を説明できる。 2. 中枢神経の役割を説明できる。 3. 感覚器の種類と伝導路を説明できる。 4. ホルモンの種類を説明できる。 5. ホルモンの分泌制御と作用を説明できる。 6. 内分泌異常による疾病を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：自身の解答を把握しておくこと。 事前学修時間：30分 事後学修項目：不正解した問題について講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/08/19 (水) 3時限 12:20～12:45	解説 2 12:20～	206教室、第3実習室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ケ 内分泌系 a 内分泌器官 b ホルモン合成・分泌・作用 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 ケ 内分泌・代謝・栄養 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 b 感覚機能 d 自律機能 e 高次脳機能 6 口腔・顎顔面の機能 ア 感覚 a 顔面皮膚、舌、口腔粘膜、口唇 b 味覚、嗅覚 c 象牙質、歯髄、歯根膜 d 咀嚼筋紡錘、顎関節受容器 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(5) 神経系 ②体性神経系と自律神経系の構造と機能を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 ④脳と脊髄の構造と機能（運動機能、感覚機能、高次神経機能及び自律機能）を説明できる。 ⑥反射、半自動運動、随意運動の発現と調節の機序を説明できる。 C-3-4)-(6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。 ②体性感覚の受容器の構造と機能を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。 ⑩味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(9) 内分泌系とホメオスタシス ①内分泌器官・組織の構造と機能及びホルモンの種類、作用と異常を説明できる。 ②恒常性維持と内分泌・神経系の機能相関を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/09/10 (木) 3時限 13:40～15:10	生殖	【授業の一般目標】 生殖機能を理解するために、性ホルモンおよび性周期を学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 生殖に関わるホルモンを列挙できる。 2. 性ホルモンの分泌制御を説明できる。 3. 性周期を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：ステロイドホルモンの種類と構造を復習する。生殖器についての解剖、組織学を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド、プリント 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/10 (木) 3時限 13:40～15:10	生殖	C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ③体温の調節機序を説明できる。 C-3-4) - (11) 生殖器系 ①男性生殖器と女性生殖器の構造と機能を説明できる。	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/09/10 (木) 4時限 15:20～16:50	体温	【授業の一般目標】 体温の調節機構を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 体温調節における視床下部の役割を説明できる。 2. 熱産生と熱放散の機構を説明できる。 3. 発熱の機序を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：ステロイドホルモンの種類と構造を復習する。生殖器についての解剖、組織学を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド, プリント 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系] 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ③体温の調節機序を説明できる。 C-3-4) - (11) 生殖器系 ①男性生殖器と女性生殖器の構造と機能を説明できる。	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/09/17 (木) 3時限 13:40～15:10	呼吸1：肺の構造と呼吸運動	【授業の一般目標】 呼吸器の構造を理解し、その運動調節機構を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 呼吸器の構造を説明できる。 2. 内呼吸と外呼吸を説明できる。 3. 腹式呼吸と胸式呼吸を説明できる。 4. 呼吸運動の調節機構を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：呼吸器の解剖学を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系] 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/09/17 (木) 4時限	呼吸2：酸素の運搬と二酸化炭素の	【授業の一般目標】 酸素と二酸化炭素の輸送機構を理解する。	吉垣 純子 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
15:20～16:50	排泄	<p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガス分圧を説明できる。 2. ヘモグロビン酸素解離曲線を説明できる。 3. 血中pH調節を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：分圧、pHの意味を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。</p>	*横山 愛
2026/09/24 (木) 3時限 13:40～15:10	循環1：心臓の構造と機能	<p>【授業の一般目標】</p> <p>心臓の構造と機能を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓の構造を説明できる。 2. 特殊心筋と固有心筋の違いを説明できる。 3. 心臓における血液の流れを説明できる。 4. 心周期を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：心臓の役割を復習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：有 復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環（肺循環、体循環及び胎児循環）の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/09/24 (木) 4時限 15:20～16:50	循環2：循環と血管	<p>【授業の一般目標】</p> <p>血液の循環経路を学び、血管の役割を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体循環と肺循環を説明できる。 2. 動脈と静脈の違いを説明できる。 3. 血管の種類と機能の違いを説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：心臓の機能を復習しておく。 事前学修時間：30分</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/09/24 (木) 4時限 15:20～16:50	循環2：循環と血管	<p>事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ②血液循環（肺循環、体循環及び胎児循環）の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/10/01 (木) 3時限 13:40～15:10	循環3：刺激伝導系と調節	<p>【授業の一般目標】 心臓の刺激伝導系と調節メカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心臓における刺激伝導系を説明できる。 2. ペースメーカー電位を説明できる。 3. 房室遅延を説明できる。 4. 心拍数調節メカニズムを説明できる。 5. 心臓における自律神経の二重支配を説明できる。 6. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：活動電位の発生機序を理解しておく。心筋の構造を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/10/01 (木) 4時限 15:20～16:50	循環4：最高血圧と最低血圧	<p>【授業の一般目標】 血圧の意義と調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 血圧を説明できる。 2. 血圧調節因子を列挙できる。 3. 最高血圧と最低血圧の違いを説明できる。 4. 高血圧の基準を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血圧調節の意義を考えておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド</p> <p>【学修方略（LS）】</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/01 (木) 4時限 15:20～16:50	循環4：最高血圧と最低血圧	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。</p>	*横山 愛 吉垣 純子 加藤 治
2026/10/08 (木) 3時限 13:40～15:10	循環5：心周期	<p>【授業の一般目標】 心臓のポンプとしての働きを理解し、各心周期における心臓の動きを学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心周期5期を説明できる。 2. 心周期における左心室内圧と大動脈圧の変化を説明できる。 3. 心周期における血液の動きを説明できる。 4. 心音とは何かを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：心臓の構造と名称を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 スライド・プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 循環器系 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。</p>	佐藤 慶太郎
2026/10/08 (木) 4時限 15:20～16:50	循環6：心電図	<p>【授業の一般目標】 心電図の波形の意味を理解し、心臓の状態を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心電図の測定法を説明できる。 2. 心電図の波形が表す心臓の興奮を説明できる。 3. 心電図から心拍数を求めることができる。 4. 心電図から平均電気軸を求めることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：心周期を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 ミニッツペーパーによる相互チェック スライド・プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能</p>	佐藤 慶太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/08 (木) 4時限 15:20～16:50	循環6：心電図	<p>ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 循環器系 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。</p>	佐藤 慶太郎
2026/10/22 (木) 3時限 13:40～15:10	実習3：心電図	<p>【授業の一般目標】 心電図に現れる電気活動を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心電図が測定できる。 2. 心電図で検出される電気活動を説明できる。 3. 心電図から平均電気軸を求めることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：心臓の刺激伝導系を復習する。心周期について理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に予習し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年全体を2つに分け、心電図と血圧の実習を交互（10月16日、10月23日）に行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 循環器系 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 横田 祐司 井上 大輔 小川 博亮 濱野 亜紀子 福島 美和子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/10/22 (木) 4時限 15:20～16:50	実習4：呼吸・血圧	<p>【授業の一般目標】 呼吸および血圧の調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 血圧を測定できる。 2. 呼吸が促進される要因を説明できる。 3. 血圧の調節機構を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血圧や血漿酸素分圧を感知する感覚器をまとめる。血圧や呼吸を調節する反射を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に予習し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年全体を2つに分け、心電図と血圧の実習を交互（10月16日、10月23日）に行う。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 横田 祐司 井上 大輔 小川 博亮 濱野 亜紀子 福島 美和子 植木 克昌 鯨岡 創一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/22 (木) 4時限 15:20~16:50	実習4：呼吸・血圧	<p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 循環器系 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 横田 祐司 井上 大輔 小川 博亮 濱野 亜紀子 福島 美和子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/10/29 (木) 3時限 13:40~15:10	実習3：心電図	<p>【授業の一般目標】 心電図に現れる電気活動を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心電図が測定できる。 2. 心電図で検出される電気活動を説明できる。 3. 心電図から平均電気軸を求めることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：心臓の刺激伝導系を復習する。心周期について理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習書を事前に予習し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年全体を2つに分け、心電図と血圧の実習を交互（10月16日、10月23日）に行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 循環器系 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 濱野 亜紀子 横田 祐司 福島 美和子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/10/29 (木) 4時限 15:20~16:50	実習4：呼吸・血圧	<p>【授業の一般目標】 呼吸および血圧の調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 血圧を測定できる。 2. 呼吸が促進される要因を説明できる。 3. 血圧の調節機構を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：血圧や血漿酸素分圧を感知する感覚器をまとめる。血圧や呼吸を調節する反射を復習する。 学修時間：30分</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 濱野 亜紀子 横田 祐司 福島 美和子 植木 克昌 鯨岡 創一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/10/29 (木) 4時限 15:20~16:50	実習4:呼吸・血圧	<p>事後学修項目:実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:有 実習書を事前に予習し、グループで話し合いながら実験を進める。 学年全体を2つに分け、心電図と血圧の実習を交互(10月16日,10月23日)に行う。</p> <p>【学修方略(LS)】 実習</p> <p>【場所(教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 循環器系 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 総論Ⅵ 検査 4 生体機能検査 ア 臓器機能検査 b 心機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 井上 大輔 濱野 亜紀子 横田 祐司 福島 美和子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/11/06 (金) 1時限 10:00~10:50	平常試験3と解説 10:00~	<p>【授業の一般目標】 生殖、体温、排泄、消化吸収、呼吸・循環に関する試験と解説を行う。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1.性周期を説明できる。 2.体温の調節機構を説明できる。 3.腎臓の役割を説明できる。 4.消化吸収機構を説明できる。 5.呼吸器の構造と調節機構を説明できる。 6.循環の調節機構を説明できる。 7.循環と呼吸の関連を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:実習を含めた講義内容を復習しておくこと。 事前学修時間:3時間 事後学修項目:不正解した問題について、講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間:1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:無</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 キ 泌尿器・生殖器系 a 腎臓、尿路 b 体液・電解質調節 c 生殖器 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 a 気道、肺・呼吸筋 b ガス交換 c 呼吸調節 a 消化管</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/06 (金) 1時限 10:00～10:50	平常試験3と解説 10:00～	②血液循環（肺循環、体循環及び胎児循環）の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 C-3-4) - (11) 生殖器系 ①男性生殖器と女性生殖器の構造と機能を説明できる。 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ③体温の調節機序を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/11/06 (金) 3時限 12:10～12:35	解説3 12:10～	<p>【授業の一般目標】 生殖、体温、排泄、消化吸収、呼吸・循環に関する試験と解説を行う。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 性周期を説明できる。 2. 体温の調節機構を説明できる。 3. 腎臓の役割を説明できる。 4. 消化吸収機構を説明できる。 5. 呼吸器の構造と調節機構を説明できる。 6. 循環の調節機構を説明できる。 7. 循環と呼吸の関連を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：自身の解答を把握しておくこと。 事前学修時間：30分 事後学修項目：不正解した問題について、講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 キ 泌尿器・生殖器系 a 腎臓、尿路 b 体液・電解質調節 c 生殖器 a 心臓、血管系、リンパ管系 b 循環調節 a 気道、肺・呼吸筋 b ガス交換 c 呼吸調節 a 消化管</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環（肺循環、体循環及び胎児循環）の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 ③血管の構造と血圧調節機能を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。 C-3-4) - (11) 生殖器系 ①男性生殖器と女性生殖器の構造と機能を説明できる。 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ③体温の調節機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/11/12 (木) 3時限 13:40～15:10	摂食嚥下1：顎位と顎運動	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下の機構を理解するために顎位と顎運動を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 顎位とは何かを説明できる。 2. 下顎安静位を説明できる。 3. 下顎運動限界路を説明できる。 4. 咀嚼に関わる筋とその役割を説明できる。 5. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/12 (木) 3時限 13:40～15:10	摂食嚥下1：顎位と顎運動	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：下顎運動に必要な筋肉を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 a 下顎位、咬合接触・咬合様式、下顎運動 b 顎反射</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ③咀嚼筋、表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/11/12 (木) 4時限 15:20～16:50	摂食嚥下2：顎反射	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下の機構に必要な反射の経路を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 下顎張反射の反射弓を説明できる。 2. 開口反射の反射弓を説明できる。 3. 顎反射の咀嚼や顎位維持における役割を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：膝蓋腱反射、屈曲反射を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義内容を復習する時間を設け、チェックテストを行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 a 下顎位、咬合接触・咬合様式、下顎運動 b 顎反射</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。 ⑧咀嚼の意義と制御機構を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/11/19 (木) 3時限 13:40～15:10	摂食嚥下3：舌運動	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下の機構に関連する舌運動を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 舌筋の種類を説明できる。 2. 舌筋の神経支配を説明できる。 3. 顎舌反射を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：膝蓋腱反射、屈曲反射を理解しておく。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/19 (木) 3時限 13:40～15:10	摂食嚥下3：舌運動	<p>事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 提示された予習項目についてプレテストを行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 c 舌・口唇・頬・顔面運動</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ③舌の構造と機能を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/11/19 (木) 4時限 15:20～16:50	摂食嚥下4：嚥下と嘔吐	<p>【授業の一般目標】 嚥下調節機構と嘔吐反射を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 摂食の5期を説明できる。 2. 嚥下の過程を説明できる。 3. 誤嚥を説明できる。 4. 嘔吐の誘因を説明できる。 5. 嘔吐反射の成立機構を説明できる。 6. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：顎反射の種類と反射弓を理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義の復習時間を設けてチェックテストを行い、解説を作成する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 d 吸啜、嘔吐 a 摂食嚥下の5期 b 嚥下の神経機構</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑨嚥下の意義と制御機構を説明できる。 ⑩嘔吐反射と絞扼反射を説明できる。</p>	加藤 治 吉垣 純子 *横山 愛
2026/11/26 (木) 3時限 13:40～15:10	睡眠	<p>【授業の一般目標】 睡眠の役割と睡眠障害について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2. 睡眠の意義を説明できる 3. 睡眠の基本構造について説明できる 4. 概日リズムについて説明できる 5. 睡眠時無呼吸症候群について説明できる</p>	*鈴木 浩司 吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/26 (木) 3時限 13:40～15:10	睡眠	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：睡眠の基本的事項について理解しておく。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：睡眠と睡眠障害について 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 授業プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ク 神経系 e 高次脳機能 必修の基本的事項 7 主要症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、不整脈、血圧上昇・低下、黄疸、呼吸困難、チアノーゼ、頭痛、動悸、息切れ、胸痛、睡眠障害、嚥下障害、誤嚥、悪心、嘔吐、下痢 歯科医学総論 総論Ⅳ 主要症候 1 全身の症候 キ 心理、精神機能 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ケ 内分泌系 b ホルモンの合成・分泌・作用</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (11) 口腔・顎顔面領域の機能障害 ⑥睡眠時無呼吸の原因、診察、検査、診断及び治療方針を概説できる。</p>	*鈴木 浩司 吉垣 純子
2026/11/26 (木) 4時限 15:20～16:50	排泄	<p>【授業の一般目標】 腎臓の役割と尿の生成機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. ネフロンを説明できる。 2. 尿の生成について説明できる。 3. 腎臓から分泌されるホルモンについて説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：腎臓の構造について学習しておく。生体物質の分子量について学習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド、プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (10) 泌尿器系と体液・電解質調節 ①腎臓、尿管、膀胱及び尿道の構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/11/26 (木) 4時限 15:20～16:50	排泄	③水代謝と主な電解質の出納とその異常を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/12/03 (木) 3時限 13:40～15:10	消化と吸収	<p>【授業の一般目標】 栄養素の吸収機構としての消化を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 消化管の構造を説明できる。 2. 消化液の種類と成分を説明できる。 3. 栄養素の吸収過程を説明できる。 4. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：三大栄養素の代謝経路を復習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義終わりに復習時間を設けチェックテストを行う。 スライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 ③膵臓 (外分泌部と内分泌部) の構造と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/12/03 (木) 4時限 15:20～16:50	唾液1：唾液と唾液腺	<p>【授業の一般目標】 口腔における唾液の役割を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 唾液の成分と役割を説明できる。 2. 唾液腺の種類と分泌唾液を説明できる。 3. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：外分泌と内分泌の違いを復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義の復習時間を設けてチェックテストを行い、解説を作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 カ 唾液分泌 a 唾液の性状と機能</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑤唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/12/10 (木) 3時限 13:40～15:10	唾液2：唾液の分泌調節	<p>【授業の一般目標】 唾液分泌の調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/10 (木) 3時限 13:40～15:10	唾液2：唾液の分泌調節	<p>1. 唾液分泌における水分分泌とタンパク質分泌を説明できる。 2. 唾液分泌における自律神経の二重支配を説明できる。 3. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：自律神経の二重支配を復習する。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 提示された予習項目についてプレテストを行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 カ 唾液分泌 b 唾液の分泌機構</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑥唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/12/10 (木) 4時限 15:20～16:50	発声と構音	<p>【授業の一般目標】 発声と構音の違いを理解し、構音に必要な要素を学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 発声器官と構音器官の違いを説明できる。 2. 発声に必要な筋の動きを理解する。 3. 母音および子音の成り立ちを説明できる。 4. 構音障害の原因を説明できる。 5. 発声および構音を支配する神経を説明できる。 6. 臨床実務経験にもとづき、臨床における生理学の基礎知識の重要性を教授する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔、咽頭、喉頭の構造を復習しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 講義内容を復習する時間を設けてチェックテストを行い、解説を作成する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 オ 発声、構音</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑧構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2026/12/17 (木) 3時限 13:40～15:10	実習5：咬合・咀嚼	<p>【授業の一般目標】 咀嚼能率を決定する要因を理解する。 咀嚼運動の調節機構を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 咀嚼能率を測定できる。 2. 筋電図で検出される電気活動を説明できる。 3. 顎反射の反射弓と意義を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 濱野 亜紀子 伊藤 洋子 横田 祐司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/17 (木) 3時限 13:40~15:10	実習5：咬合・咀嚼	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：顎反射の種類を復習する。咀嚼筋の収縮による下顎の動きを理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習で得られたデータからレポートを作成する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学年を2つに分けて、咬合咀嚼と唾液の実習を交互（12月11日、12月18日）に行う。 ピーナツの咀嚼により咀嚼能率を測定する。 咬筋の筋電図を測定する。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 a 下顎位、咬合接触・咬合様式、下顎運動 b 顎反射 a 咀嚼能力 b 咀嚼運動の調節</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。 ⑧咀嚼の意義と制御機構を説明できる。</p>	植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/12/17 (木) 4時限 15:20~16:50	実習6：唾液	<p>【授業の一般目標】 唾液の分泌調節と成分変化を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 唾液の分泌機序を説明できる。 2. 唾液の分泌量と成分を変化させる要因を説明できる。 3. 唾液のpH緩衝能を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：唾液の組成と役割を復習する。唾液腺の種類を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習で得られた結果からレポートを作成する。 学年を2つに分けて、咬合咀嚼と唾液の実習を交互（12月11日、12月18日）に行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 カ 唾液分泌 a 唾液の性状と機能 b 唾液の分泌機構</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑤唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。 ⑥唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 小川 博亮 濱野 亜紀子 横田 祐司 伊藤 洋子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/12/24 (木) 3時限 13:40~15:10	実習5：咬合・咀嚼	<p>【授業の一般目標】 咀嚼能率を決定する要因を理解する。 咀嚼運動の調節機構を理解する。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	実習5：咬合・咀嚼	<p>【行動目標（SBOs）】 1. 咀嚼能率を測定出来る。 2. 筋電図で検出される電気活動を説明できる。 3. 顎反射の反射弓と意義を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：顎反射の種類を復習する。咀嚼筋の収縮による下顎の動きを理解しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：実習で得られたデータからレポートを作成する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学年を2つに分けて、咬合咀嚼と唾液の実習を交互（12月11日、12月18日）に行う。 ピーナツの咀嚼により咀嚼能率を測定する。 咬筋の筋電図を測定する。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 a 下顎位、咬合接触・咬合様式、下顎運動 b 顎反射 a 咀嚼能力 b 咀嚼運動の調節</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。 ⑧咀嚼の意義と制御機構を説明できる。</p>	岡林 堅 井上 大輔 横田 祐司 小川 博亮 濱野 亜紀子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2026/12/24（木） 4時限 15:20～16:50	実習6：唾液	<p>【授業の一般目標】 唾液の分泌調節と成分変化を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 唾液の分泌機序を説明できる。 2. 唾液の分泌量と成分を変化させる要因を説明できる。 3. 唾液のpH緩衝能を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：唾液の組成と役割を復習する。唾液腺の種類を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：実習内容についてレポートを作成する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 実習で得られた結果からレポートを作成する。 学年を2つに分けて、咬合咀嚼と唾液の実習を交互（12月11日、12月18日）に行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 カ 唾液分泌 a 唾液の性状と機能 b 唾液の分泌機構</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑤唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 井上 大輔 小川 博亮 横田 祐司 福島 美和子 濱野 亜紀子 植木 克昌 鯨岡 創一郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2026/12/24 (木) 4時限 15:20～16:50	実習6：唾液	⑥唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛 岡林 堅 井上 大輔 小川 博亮 横田 祐司 福島 美和子 濱野 亜紀子 植木 克昌 鯨岡 創一郎
2027/01/13 (水) 3時限 13:00～13:50	平常試験4と解説 13:00～	<p>【授業の一般目標】 摂食嚥下、唾液・唾液腺、構音についての試験と解説を行う。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：実習を含めた講義内容を復習しておく。 事前学修時間：3時間 事後学修項目：不正解した問題について、講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動 a 下顎位、咬合接触・咬合様式、下顎運動 b 顎反射 c 舌・口唇・頬・顔面運動 d 吸啜、嘔吐 b 咀嚼運動の調節 a 摂食嚥下の5期 b 嚥下の神経機構 オ 発声、構音 a 唾液の性状と機能 b 唾液の分泌機構</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。 ⑧咀嚼の意義と制御機構を説明できる。 ⑨嚥下の意義と制御機構を説明できる。 ⑩嘔吐反射と絞扼反射を説明できる。 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ③舌の構造と機能を説明できる。 ⑤唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。 ⑥唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。 ⑧構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2027/01/13 (水) 6時限 14:35～14:55	解説4 14:00～	<p>【授業の一般目標】 平常試験4についての解説を行う。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：自身の解答を把握しておく。 事前学修時間：30分 事後学修項目：不正解した問題について、講義ノート・プリントで確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 206教室、第3実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系〔骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系〕</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 6 口腔・顎顔面の機能 イ 運動</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2027/01/13 (水) 6時限 14:35～14:55	解説 4 14:00～	a 下顎位、咬合接触・咬合様式、下顎運動 b 顎反射 c 舌・口唇・頬・顔面運動 d 吸啜、嘔吐 b 咀嚼運動の調節 a 摂食嚥下の5期 b 嚥下の神経機構 オ 発声、構音 a 唾液の性状と機能 b 唾液の分泌機構 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。 ⑧咀嚼の意義と制御機構を説明できる。 ⑨嚥下の意義と制御機構を説明できる。 ⑩嘔吐反射と絞扼反射を説明できる。 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ③舌の構造と機能を説明できる。 ⑤唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。 ⑥唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。 ⑧構音器官としての口腔の形態と機能を説明できる。	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛